

発行代表者：鎌田 龍児

編集代表者：松坂 定徳

印刷：奥野印刷

2014.09

関西岩手県人会

〒530-0001 大阪市北区梅田 1-3-1-900 大阪駅前第 1 ビル 9F 岩手県大阪事務所内

【TEL&FAX】 06-6344-5969

【ホームページ】 <http://www.iwate-kansai.com/>

## ～震災を風化させないために～ 東日本大震災 3 周年 岩手、宮城、福島県人会 合同街頭募金



あの未曾有の大災害をもたらした東日本大震災（平成 23(2011)年 3月 11 日、午後 2 時 46 分）から 3 年が経った。本県人会は鎌田龍児会長が、震災当日から遅く陣頭に立ち、震災発生 3 日後に緊急役員会を召集して会員へ義援金をお願いし、また街頭募金を宮城、福島県人会に働きかけ、震災発生 10 日後の 3 月 21 日(月・祝)には難波の数箇所で 3 県合同街頭募金を開始した。つづいて 3 月 22 日(火)は梅田近辺で、3 月 25 日(金)は再び難波で実施した。神戸元町、三宮においても 4 月 17 日(日)に、大阪京橋でも 5 月 22 日(日)に 3 県人会合同で行った。関西岩手県人会単独では 4 月 24 日(日)に難波の法善寺境内をお借りして実施した。当時のボランティアは、多くの募金者に励まされ思わず目頭が熱くなる経験をした。震災 2 周年の平成 25(2013)年 3 月 9 日(土)、10 日(日)、11 日(月)には、同様に梅田、神戸、難波のそれぞれ数箇所を行った。「募金額の多寡にはこだわらない」として事に臨んだが、多くのボランティアが「募金額が意外に多かった」と

の感想を持った。

今年、震災 3 周年の役員会では「もはや 3 年、行政の手にゆだねるべき」「まだ 3 年、復興にはほど遠い」との意見に分かれたが、宮城、福島県人会との会合では「震災を風化させないために、今年も実施すべき・・・」との意見で実施の結論となった。

平成 26(2014)年 3 月 8 日(土)、9 日(日)、11 日(火)に 2 周年と同様の梅田、神戸、難波にて 3 県合同の街頭募金を行った。週末に寒波襲来で 3 月 8 日の土曜日は梅田の街頭は一日中とても寒かった。道行く人の懐は固く閉ざされ、声高く呼びかけてもむなしく響く感じで、ボランティアの皆さんのがんばりの色はいつもより濃かった。翌 3 月 9 日は神戸元町、三宮であったがやや気温の上昇があり、少し道行く人の懐が開いた感じであった。3 月 11 日はありがたいことに陽だまりは暖かく感じられ、通行人の懐も前 2 日間よりは温かかったようで、はっきりと気温の上昇が募金額の数字にあらわれた。

平成26年度の3県合同募金総額は以下のようである。

3/8(土) 梅田 158,409円 (前年度 522,244円)

3/9(日) 神戸 233,314円 (同上 570,310円)

3/11(火) 難波 454,320円 (同上 492,019円)

合計 846,043円 (同上 1,584,573円)

震災直後の熱気が薄らいで、昨年の2周年よりも更に関心の低さが感じられた。それでも、「震災を忘れない、風化させない…」との目的は達せられているはずである（鎌田会長談）。

今回は今までの復興支援のお礼に、関西岩手県人会は「三陸わかめ」の試供品を1,500個、岩手県産(株)のお世話を用意した。宮城県人会は支倉常長の400年祭に配ったシール1,000枚、福島県人会は八重の桜(新島八重)のティッシュペーパーを500個それぞれ用意して募金者に配った。決して、これを餌に募金してもらおうと思ったわけではないが、募金のために戻ってきて「わかめ」を受け取る人もいた。「わかめ」は募金者のほぼ全ての人に喜ばれたようだ。

なお、3月11日(火)は例年通り法善寺にて大震災犠牲者の法要が行われ、3県人会の会長や犠牲者ご遺族がお参りした。午後2時46分を期してボランティア全員も黙祷



2014/03/08

を捧げた。また、法善寺より義援金として50,000円が3県人会に托されたことを報告する。(深田記)

◎ 街頭募金のボランティアは以下の通り(敬称略)

【3月8日(土)】 鎌田 龍児、熊谷 克巳、加藤 文雄、菊池 敏博、水上 佳子、中野 由貴、深田 稔

【3月9日(日)】 濱本 昌範、鎌田 龍児、長山 幸悦、加藤 文雄、平野 良夫、深田 稔

【3月11日(火)】 金野 衛、和賀 亮太郎、八幡 勝栄、藤原 照雄、中村 滋、加藤 文雄、水上 佳子、金本 栄子、菊池 敏博、松坂 定徳、柏山 喬、平野 良夫、深田 稔

## 56,717円の温かい義援金あつまる

～エトレ豊中専門店街で復興支援の岩手県物産展～

東日本大震災から丸3年となる3月7、8、9日の3日間、大阪府豊中市阪急豊中駅近くで岩手県物産展が開催された。3日間で1,024名の来客があり大変盛況であった。

仕掛け人はエトレ豊中専門店街において、岩手県产品を使っておにぎり・惣菜店「五飯」を経営する澤田 龍氏(希望郷いわて文化大使)で、常々岩手の復興支援に心をくだいてくださり「少しでもお役に立てれば…」と暖めていた企画であるという。主催は澤田さんの企画に賛同してくれた「エトレ豊中専門店街」、後援に「関西岩手県人会」、協力に「岩手県大阪事務所」と澤田さんのご子息が所属する「関西大学亀井ゼミ」で、期間中は学生数人がボランティアで手伝いに来ていた。

お馴染みの南部せんべい、盛岡冷麺、わんこそば、かもめの玉子、三陸わかめなどの他、紫波の自園自釀ワイン、以前にB1グランプリに輝いた「まめぶ汁」、佐助豚などの新銘商品も並んだ。とりわけ、三陸わかめは二日目には売り切れとなり追加取り寄せとなるほどの人気であった。

また、毎年品評会で特Aに輝く「岩手県産ひとめぼれ」を用いた「おにぎり」、「いくら、うに丼」、佐助豚を使った「しょうが焼き丼、メンチカツ」など、岩手の特産品を使用した手作りメニューを作る端から売れていた。



なお、澤田さんの発案で、物産展3日間を含む約1ヶ月にわたり店頭に東日本大震災復興支援の募金箱を置かせていただいた。豊中周辺住人の温かい気持ちがこもった義援金は56,717円であった。後日、澤田さんより寄贈されたが、澤田さんが最も心をいためていたという「震災孤児」への育英資金、「いわての学び希望基金」に組み入れた。

(編集部)

## 親睦お花見会

4月7日(土) 京都

京都円山公園にて関西岩手県人会、京都岩手県人会および関西奥州会の親睦お花見会が開催された。

前日の天気予報では「雨マーク」が表れて且つ冷え込むとのことだった。京都県人会より多少の雨でも決行するとの連絡があり、一部の問い合わせにはそのように答えたが、昨年悪天候で中止になったこともあり内心とても心配した。しかし、雨は一瞬ぱらついたものの殆ど降らず、気温も朝方は冷えたらしいが防寒用ダウンジャケットを脱いでしまうほどであった。

場所は例年通り円山公園の上方山腹にあり、京都岩手県人会の代表幹事で、造園業の「楓雅舎」舎主である佐藤 耕吉さんが懇意にしている料亭の敷地で、絶好のロケーションであった。何よりも、その日の円山公園の桜は満開で美しく京都らしく着物姿の見物客も多くて、これが一層の趣きを添えた。

関西岩手県人会の鎌田 龍児会長の挨拶、京都岩手県人会の及川 光夫会長の挨拶と乾杯により宴が始まった。途中、佐藤 耕吉さんによる周辺の桜の手入れや樹木の説明、一通りの自己紹介、民謡もとびだして和やかであった。そこかしこで車座ができ笑いが絶えず、快く酔われた方もかなりおられたようである。

当日は風邪による体調不良や都合が悪くなりやむなく欠席連絡のあった2名を除き総勢31名で、岩手県大阪事務所3名、岩手日報社大阪支社3名の方に出席していただいたほか、関西岩手県人会13名、京都岩手県人会9名、関西奥州会8名(重複あり)、その他2名で大いに親睦の実をあげた。

なお、例年のように京都岩手県人会の面々が、寒い中朝早くから場所取りと設営に詰めていただきました。また今年より、円山公園の規制が厳しくなり「ブルーシート禁止、車の園内乗り入れ禁止」となったため、貸出しござの運搬と八坂神社の門前からの弁当運びなどが必要であった。お手伝いいただいた皆さんに感謝します。（編集部）



## 「花巻・賢治を読む会」のみなさんと比叡山へ

中野 由貴さん（兵庫県出身）

5月17日に花巻市から「花巻・賢治を読む会」有志20名の方たちが「賢治ゆかりの地めぐりin京都」という事で2泊3日関西にお越しになりました。

今回ツアーには宮澤 賢治の実弟・清六さんの長女・宮澤潤子さんとお孫さんの香帆さんも参加されました。それで関西宮沢賢治の会が、賢治の命日9月21日に毎年、比叡山延暦寺・根本中堂前の賢治歌碑前で執り行われる賢治忌法要へ参列しているご縁から、関西宮沢賢治の会、関西岩手県人会より深田 稔氏、村上 忠夫氏が、1日目の比叡山参拝に同行しました。また私もツアーに知人が参加しているご縁で一緒に参加させていただきました。

「花巻・賢治を読む会」は、昭和44(1969)年の発足で、花巻に住み、賢治の風土で、賢治作品の朗読活動を続けておられる団体です。平成22(2010)年には花巻市主宰のイーハトーブ賞奨励賞を受賞されています。これまで県内を周ってきた「ゆかりの地めぐり」を昨年からは県外へも範囲を広げ、今年は京都へのツアーを企画されたということです。

比叡山では毎年賢治忌法要の導師を務められる横山 照泰師(現・天台宗參務・一隅を照らす運動・總本部長)に案内いただきました。ご説明を聞いて改めてこの山全体が祈りの場所であることに気付かされました。

賢治歌碑は、昭和32(1957)年9月21日に建立。賢治さんの遺骨が納められていると聞いています。歌碑には賢治さんが詠んだ「比叡」と題される12首の最初の句「根本中堂」が記されています。

ねがはくは 妙法如来正偏知

大師のみ旨成らしめたまへ

ここに大正10(1921)年25歳の賢治さんと48歳の父・政次郎さんが来たのだなあとツアー一同、想いを馳せました。

花巻からお越しなったみなさんと、関西で暮らしている岩手とゆかりのある私たちがこうして交流できる機会というのは、とても大切なことではないかと思った一日でもありました。今回の出会いや交流が今後も続きますように。そしてこの様な地域を越えての交流の機会が、もっと広がるといいなあと思っています。

私はといえば、花巻のみなさんとお話しするうち、花巻に出かけたくなってしまいました。今度は花巻での再会の日を楽しみにしています。





# 関西でもひろめたい 岩手最古の焼き物 小久慈焼の魅力

久慈の男性と結婚した、大阪出身の下嶽信子さん。そのお相手はなんと小久慈焼の窯元の跡取りでした！ 岩手県知事室にも飾られているという小久慈焼の魅力を、下嶽さんにたっぷりうかがいました。（編集部）

「岩手といえば小久慈焼」と思っておりますが、岩手県はとても広いので、県北の端っこでひっそりと続いてきた小久慈焼をご存じない県南の方もいらっしゃるかもしれません。

## ● 小久慈焼の歴史 ●

江戸後期に福島県の相馬焼の職人さんから技術を学んだ後、地元の粘土と釉薬で日常の器を作りはじめたのが起源と言われています。今日までの長い間、時代や生活に合わせて少しずつ形を変えながら作り続けられ、どの家にも一つや二つはあるといわれるほど地元では親しまれています。明治時代には、民藝運動家の柳宗悦によって高く評価されました。



現在は夫（下嶽智美）が作っています（7代目岳芳は夫の父で、夫はまだ8代目を襲名はしていません）。もみ殻の灰を使った糠白（乳白色）と鉄釉の飴（茶色）が、小久慈焼の伝統の釉薬です。シンプルな形と色が現代の生活や料理を選ばないということで、たくさんの方々が使ってくださっています。

## ● 小久慈焼との出会い ●

私が小久慈焼に出会ったのは、実は夫と知り合う10年以上前。頒布会の焼き物コースの中にあった茶色の小瓶に魅せられたのが最初です。当時、エスニックやアジアンなインテリアに凝っていたので、竹細工やインドの染物に合わせては、「めっちゃ素敵～！」と一人満足していました。結婚後に、その茶色の小瓶が小久慈焼だと知り大変驚きました。



## ● 「あまちゃん」で使われる ●

昨年、NHKの朝ドラ「あまちゃん」の放送で久慈は一躍有名になりました。三鉄が、琥珀が、北限の海女が全国区で話題に上り、「じえじえじえ」は流行語大賞を受賞です。

実は、「あまちゃん」の作中で使われた食器をプロデュースしたのは小久慈焼でした。

夫が7代目や自分が作ったものを中心に、小久慈焼で修業し独立された方や地元の木工、実際使わっていたアンティークなどをセレクトしたのですが、どこにも小久慈焼の名前が出てきませんでしたので、そのことをご存知の方はほとんどいらっしゃらないのです。

それでも、ドラマを見て「あ、小久慈焼！」「これ持ってる！」と盛り上がっておられた方も多く、とてもうれしかったです。

## ● 岩手を代表する焼き物として全国へ ●

「あまちゃん」の後は、リニューアルされたJR久慈駅の待合室のテーブルや東北エモーションという八戸線を走るレストラン鉄道で、メインディッシュやデザートバイキングのお皿に使われています。

一昨年70年ぶりに開催された高島屋の「民藝展」が、今年再び開催されるようです。

東京は9月、大阪は来年の1月です。小久慈焼も出展しますので、岩手最古の焼き物を手に取ってみてください。



下嶽 信子さん

大阪生まれ。平成16（2004）年に結婚して久慈へ移住しましたが、平成21（2009）年、母の介護のために大阪に戻り現在に至ります。本籍は久慈にあるし、気持ちは岩手県民なので県入会することにしました。

さんさ踊りが大好きです。

# 盛岡大学附属高校 夏の甲子園 8 度目で初勝利も ベスト8には届かず

～第 96 回全国高校野球選手権大会～

抽選日の前日 8 月 5 日、宿舎のチサンホテル神戸にて激励会が行われ、鎌田会長および猪久保大阪事務所長の激励の挨拶、ならびに本会および岩手県大阪事務所、岩手日報社、更に小林 潤子さんよりお祝いが贈られた。また、いつもながら大阪事務所山本主任の力強いエールも送られた。

翌日の抽選では 2 回戦で強豪の呼び声高い東海大相模と 8 月 14 日(木)第 3 試合に当たることになった。台風 11 号により試合は 8 月 16 日(土)に順延となり、当日も雨で開始が 1 時間も遅れ、時折小雨の降る中での試合となつた。

1 回表に相手投手の速球により 3 者三振を喫し、その裏にエラーが絡みで 2 点を取られた時は大敗の予感がした。しかし、2 回表に遠藤二塁手のホームランで 1 点を返し、また速球投手と聞いていた松本投手が次第に本領を発揮し始め追加点を許さず、6 回表には相手投手の速球に慣れ打線が繋がって 3 点を取って逆転し、更に最終回の追撃を振り切り 4-3 で勝利したのは見事という他ない。

3 回戦は 8 月 20 日(水)第 4 試合で昨年春の選抜大会 2 回戦で対戦し敗れた敦賀気比と再び対戦した。

この日の松本投手は最初から精彩がなく、1、2 回は最少失点できりぬけたが 3 回は味方のエラーもあって 8 点を失い、ライトの守備に就いたがバックホームもできないほどで明らかに肩の故障が見て取れた。その後繰り出す投手も守備もシャキッとはせず、わずかに遠藤二塁手が 2 試合連続ホームランで氣を吐いたのみで 16-1 で大敗した。ベスト8にはまだ遠い。(編集部)



## 始球式に福岡高校 柳畠 洋太主将が選ばれる

阪神甲子園球場の誕生 90 周年ゆかりの学校として県立福岡高校が選ばれ、始球式にキャプテンの柳畠 洋太君が決まった。前身の福岡中学時代、第 13 回大会で群馬の桐生中学に勝ち、東北勢として甲子園で初勝利を挙げたのと、東日本大震災の被災県であることが理由とのこと。かつては阪神の名二塁手として活躍した白坂 長栄選手を輩出し、文武両道を誇った福岡高校は、昨今やや進学校に偏った嫌いがあるが、柳畠君に加え県高野連の個人研修に応募した 1、2 年生 4 名と引率の先生を加えて 6 名が来阪。8 月 11 日、雨で順延の甲子園近くのレストランで関西福陵会(同窓会) 役員の激励を受けた。柳畠 洋太君は 8 月 13 日の始球式で、第 1 試合、後攻の龍谷大平安の捕手をめがけて素晴らしいボールを投げ、思わず笑みをもらしたのが印象的であった。研修を受けた生徒が強豪復活を遂げてくれるよう期待したい。(深田記)



## 賑やかに・面白・おかしく“納涼祭”～第5回 北東北3県合同納涼ビアパーティ

殺人的猛暑日であった前日に続き、やや和らいだとは言えなお蒸し暑かった平成26年7月27日(日)に、上記納涼祭がアサヒビール・スーパードライ梅田にて、12時から開催され賑やかなうちに15時に終了しました。今年は幹事県が青森県人会で、須郷 満同県人会長が鎌田 龍児、畠山 圭司の岩手・秋田県人会長とともに登壇しご挨拶、つづいて3県合同大阪事務所の猪久保健一所長が乾杯の音頭をとり、飲み放題のアナウンスとともに会食・懇談が始まりました。今年の出席者は115名(前年105名)で本県からは42名(前年48名)でした。

しばらく歓談の後、青森県人会の女性司会者が余興の部を取り仕切りました。今年は「カラオケ代の節約が目的」と須郷会長が述べましたが、ピアノとサックスの生バンド演奏がウリでした。須郷会長の友人でプロの演奏家がボランティアで出演を快諾された由。まずはプロの力量の披露におよび2曲の軽快な音楽を演奏した後、各県から申し込みのあった歌謡曲6曲が続きました。

本県からは1曲のみで寂しかったのですが、最近入会の長山幸悦さんが「夕やけ雲(千昌夫)」を、生バンドを背景に熱唱して大きな拍手をもらいました。

舞踊・演芸の部では本県が誇る満91歳の舞踊家・佐藤俊三さんが、「古城(三橋美智也)」の莊厳な舞を披露し、これまた大きな拍手をいただきました。秋田県人会は「フラダンス」の女性師匠が、踊り方の解説つきで7~8人を従え、いかにも楽しそうに曲のメロディーに合わせて踊りました。また、お揃いの衣装を着て二人の女性が「秋田盆唄」を踊りました。青森県人会はトリを務め、「南部俵積み唄」「津軽甚句」の三味線演奏でした。もちろん唄い手の伸びのある



唄声も見事でした。三味線の音に合わせて、少ながらぬ人々が自然に踊り出すのを見ましたが、これは津軽のお国柄でしょうか。

最後はピアノとサックスの「ジェンカ」の音楽に合わせてのステップでした。司会の呼びかけに応じて当初10人程度だったのが、曲の終了の頃には30人を超え、鎌田会長をはじめ本県人会のみなさんも参加してとても楽しそうでした。青森県人会は準備も女性がリーダーで司会者も女性でした。「青森は女子力がすごい」と言うと、須郷会長曰く「私をないがしろにして、好き勝手をするんです」。

来年は秋田県人会が幹事となるので、畠山圭司会長から閉会の挨拶があり、「今回の青森県と同等の賑やかさを演出したい」と閉められました。(編集部)

### 事務局掲示板

既にお気づきのように、前号からイーハトーブの編集デザインが変わった。お忙しいなか、入江陽子さんと中野由貴さんに編集に加わっていただき、お二人の斬新な感覚の生かされた紙面となった。

来年の2月11日(水・祝)に本会創立60周年記念祝賀会をリーガロイヤルホテルで開催することが決まった。県人会報イーハトーブの60周年記念誌にはみなさんの出身市町村長の寄稿文を掲載の予定である。このたび企業広告による協賛金の他に会員のみなさんに対してご寄附を募っているが、現在まで幹事役員はもとより会員のみなさんから多額のご支援があり驚き感謝している。

今回は、本会活動に多大な貢献をされた方を特別功労表彰、地道に取り組んでおられた方を過去にさかのぼって功労表彰することになった。また、30年以上在籍し本会を支えてくれた方を永年在籍者として表彰することにしている。みんなで創立60周年をお祝いしたい。

### 新会員のご紹介

小山 文男(昨年12月、一関市)、下嶽 信子(3月、大阪市)、藤井 知子(4月、盛岡市)、藤井 修(4月、岡山市)、高野 則子(4月、奥州市)、佐々木 敦人(5月、盛岡市)、坂山 忠夫(5月、北上市)、東口 由紀子(6月、宮古市)、紺野 隆幸(7月、盛岡市)、松本 哲(8月、盛岡市)、長澤 直(8月、零石町)  
※お名前(入会年月、出身地)、敬称略

### 関西岩手県人会創立60周年 総会・祝賀会のご案内

【日時】 平成27年(2015)2月11日(水・祝)

11:30 総会

12:40 記念写真

13:00 祝賀会 ※予定

【場所】 リーガロイヤルホテル(北区・中之島)